

会 議 の 要 旨 (議 事 録)

会 議 の 名 称	令和6年度 第1回鳥栖市子ども・子育て会議		
開 催 日 時	令和6年12月23日 18時30分～	開 催 場 所	鳥栖市役所1階 多目的ホール
出 席 者 数	7人(委員) 8人(事務局) 計15人	傍 聴 人 数	0人
議 題	(1)第3期子ども・子育て支援事業計画の素案について (2)その他		
配 布 資 料	・第3期鳥栖市子ども・子育て支援事業計画(素案) ・鳥栖市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査 報告書 ・今後のスケジュール		
所 管 課	(課名) こども育成課 (電話番号) 85 - 3552		

令和6年度 第1回鳥栖市子ども・子育て会議 議事録

(1) 第3期子ども・子育て支援事業計画の素案について

事務局より次の資料に基づいて説明

- ・第3期鳥栖市子ども・子育て支援事業計画（素案）
- ・鳥栖市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査報告書

委員：主な取組の中で、子育て支援総合コーディネータの詳細な取組としては、市のホームページやSNS等にご子育て情報を行っている。

委員：アンケートの就学前というのは0歳からなのか。

事務局：0歳児から対象としている。

委員：アンケート調査で、保護者が書いている自由記述は非常に大事な意見になると思う。結果の中で、子育てに関して不安を感じている方が見えてくる。

私としては、他県や他地域のサービスの差というのが意見として見えてくると思った。細かく事業をしていただいているところだとは思いますが、今後は鳥栖市として子育ての目玉になるような事業が大事になると思う。

自由記述は全体としては少数の意見かもしれないが、こういった意見を一つひとつ見ていくことで、全体的な部分も見えてくるのではないかと思う。

また、最後のページについて、小学校と各施設の連携について、学童が入っていない理由は。

事務局：自由意見の中でも、医療費の無償化に関しては、来年度から高校生の通院助成まで検討していきたい。

子育て支援センターについては、気軽に相談できるように小学校区ごとに1つ設定しているのは、他の地域より魅力的な部分かと思う。また、保育料の減免についても近隣と比較すると鳥栖市は保育料の減免が大きかったというような実績もある。

こういったところで、鳥栖市が子育て施策に頑張っているというのはしっかりとアピールできるようにしていきたいと考えている。

ご指摘のあった連携の部分については、学童保育もここに記載していきたいと考えている。

会長：鳥栖市は他の地域と違い、推計を見ると人口が増えている地域なので、そのメリットを増やしていくということが大事なのかと思う。

委員：47頁の放課後児童クラブの記載については前回5歳～となっているが、今回は6歳～となっている。1年生から6年生までが対象ということなのか。

今年、保護者さんから4年生以上はもう入れないという意見が出ていた。前年度はどのような募集をされたのか。また、4年生～6年生の募集があるとするどこの地区が多いのか。人員確保が必要になると思うが、その点はどうされているのか。

事務局：募集の仕方については、1年生から3年生と限らず6年生までを対象としている。その中でも、優先順位をつけており、3年生までを優先するという対応をとっている。

利用の状況については、鳥栖北小学校区、鳥栖小学校区、旭小学校区が利用の多いところになる。

人員確保については、ハローワークや人材派遣会社や保護者会の方にもお願いをして人材確保に努めている。

委員：4年生以上の申し込みも一定数あるということなのか。

事務局：少なくなるが、一定数申し込みはある。

委員：自由回答の81頁にもありますが、子育てのサービスについてリフレッシュで使うことはどこまで可能なのかという疑問がある。行政の方で基準等を教えていただければと思う。

事務局：保育所の利用については、入園のご案内の際に必要な限りでお願いしますとは書かせていただいている。

必要というのが、仕事でなければいけないということは考えていない。病院等の理由もある。美容院に行く際にお子さんを連れていけるのかということなど難しい部分もあるかと思うので、「必要な限度」でお願いしますということにしている。

リフレッシュというのがどの程度かというところではあるが、状況等を見ていただいて、お預かりをした方がいい状況があったのでご質問していただいたのかと思う。非常によく見ていただいてありがたいと思っている。

預け続けて、ご両親だけで遊びに行かれる状況等は望ましくないと感じている。1日のうちでお子さんが保育園で過ごす時間がとても長くなって、親子で接する時間が非常に少ないという現状もある。ふれあいの時間というのを大事にしていきたいという考えもあるので、引き続き「必要な限度」でとさせていただきたい。

委員：産後鬱等の話を聞く中で、アンケートの中では前向きな意見が多いという印象だった。前向きな方だからアンケートに答えているのでは。

障がいのある子どもを持つ親が一番に壁にぶつかる場所は、子育て支援は障がいのある子には関係ないなと思うところかと思う。今はこのように事業も増えていて素晴らしいとは思っているが、それでも産後鬱であるとか虐待の現状がある。その理由の一つとして、SNSでキラキラした生活を見すぎて自分とのギャップを感じてしまう人がいるという話になった。

素敵な事業がたくさんあり、専門家の声を聞くことも大切だが、やはり経験者の保護者の方の声というのも大切になってくる。

そういった際に、私たちのような一般の人に繋いでいただけるような仕組みがあるといいと思う。

事務局：アンケートに関しては、不満や無回答が0にならない限り、行政としては努力していく必

要があると感じている。

行政の制度だけでは届かない部分というのもあるので、情報等も管理しながら、今後そういった部分に繋げていけるような情報提供等も検討していきたいと考えている。

(2) その他

事務局より次の資料に基づいて説明

- ・今後のスケジュール